

「東北発 2006年度 高校生国際化プロジェクト100」

シリーズ
第1弾

どうやったら 海外の大学へ進学できる？

国際教育&キャリアサポート

diBec 代表取締役 多田克士



私たちはこの度、高校生の進路の選択肢として(しかしあくまで一選択肢として)、「高校生国際化プロジェクト100」と題し、夢や目標を持った高校生を毎年100人限定で、海外の大学へ進学してもらう制度を発足させました。今後、この連載を通し、先生方、保護者および高校生の皆様に、大学留学は特別な事では無いことを理解してもらおうと同時に、日本の大学との違いを入学条件・費用・英語力・就職等の観点から説明していきます。

「アメリカの大学へ行きたいんですけど...」、「海外の大学で〇〇を勉強したいんですけど...」。このような相談を受けたことのある先生はたくさんいらっしゃると思います。しかし、アメリカをはじめとした、海外の大学への入学に関する正確な情報が不足しているのが現状です。個々の大学ごとに違いがありますが、一般的に海外の大学進学で最も大事な要素の一つは、学力です。必ずしも英語力ではありません。しかも、ここで言う「学力」とは、何も成績だけを指すのではありません。文字通り「学ぶ力」です。学びたいという熱意、部活動、奉仕活動など勉強以外の活動への参加、

などテストの点数には現れない部分も十分に加味されます。

また、成績に自信が無い人には、コミュニケーションレジットと呼ばれるアメリカの2年制短大へ進学する選択肢もあります。コミュニケーションレジットは成績をほとんど問いません。誰にでもチャンスを与えるアメリカらしい制度です。もし自信が無ければ、まず2年制短大に入学し、3年次に4年制大学へ編入すればいいのです。UC LAやUCバークレーと言った一流校を卒業している日本人学部生のほとんどは、編入制度を活用した人たちです。

英語や成績に自信が無いからといって、大学留学を反対することも諦める必要もありません。むしろ、海外で頑張りたい、英語を本当にマスターしたい、という熱意のある学生であればあるほど、海外で成功する可能性が高くなります。

けっして特別なことではない海外の大学留学。高校生の大きな夢・目標を叶える手助けとして周囲が正確な情報を与える。それが大人に課せられた役割・責任の一環ではないかと考えます。

※今号より来年2月まで、シリーズでお届けします。

◆第2弾 国立大学より安く大学留学？

◆第3弾 英語ができないからこそ大学留学する！

◆第4弾 就職してこそ初めて成功！